



図3 要素の位置の同定の為、大井区長へ行ったヒアリング調査の様子 (令和3年11月)

実施者

- ◀ 教員 ▶ 千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 鎌田研究室 鎌田 元弘 教授、磯野研究室 磯野 綾 助教
千葉工業大学 創造工学部建築学科 藤木研究室 藤木 竜也 准教授
- ◀ 参加者 ▶ 千葉工業大学 創造工学部都市環境工学科 磯野研究室 大島、大沼
- ◀ 協働パートナー ▶
- 【行政】南房総市市民生活部市民課市民協働グループ 【市民団体等】南房総市大井区ほか

1. 背景・目的

南房総市大井集落において保里家・遠藤家が保有していた古地図・古文書が発見された。これはかつての大井集落及びそこに隣接してあった嶺岡牧の様相を垣間見ることができる貴重な資料であり、集落の歴史的価値を裏付ける貴重な資料である。

本プロジェクトは持続可能な集落創造のもと、次の3点を通し、集落の価値を改めて評価することにより、伝統文化や歴史的資料を活かした集落づくりに寄与すること目的として、取り組むものである。

- ・これまで集落が受け継いできた古地図・古文書等の歴史資料を整理し、次世代に引き継ぐ。
- ・歴史的資料の解説により、集落の歴史的価値を改めて評価し、次世代に引き継ぐべき歴史的景観とその意義を明らかにする。特に古地図は、描画当時の土地利用・生活文化・経済活動等に基づいた空間構成を表しており、景観はそれらが総体として視覚的に表れてくるものである。つまり、古地図は描かれている景観的な特徴の把握や現在の景観との比較を通し、集落の歴史的価値を明らかにするために有用な資料と成り得ることから、景観研究視点からの調査を進める。
- ・研究成果を広く情報公開することにより、集落の資産としての古文書・古地図の情報及びそれらから見た地域の歴史的価値を住民の方々と共有し、理解を深めるため、研究成果の一般公開を行う。

2. 活動内容

本年度から新たに開始した事業であることから、本年度はまず次の3点を行った。

(1) 古文書・古地図の保存方法の検討

古文書は内容・作成者・文書の形式・作成年代によって、様々

な地域活動や個人の活動記録等が明らかとなるが、今回扱う資料は発見されて間もなく、整理や分類が進んでいない。そこで、まず内容を分析する前段階として、古文書の整理及び保存方法の検討を行った。古文書・古地図は大井ベース作業室の桐単筒(一部段ボール内)に大まかに分類し、簡易的な目録を作成したうえで中性子封筒に「引き出し No. - 通し No.」を明記して保管することとした(図1)。

(2) 古地図に記載された情報整理並びに集落の空間構成及び景観特徴の把握

古地図はその図ごとに表記方法が違っていたり異なる情報が含まれていたり、描かれている情報を古地図間又は古地図と現代の地図間で単純比較することが困難である。さらに、今回扱う資料は古文書と同様、整理や分類が進んでいない。そのため古地図に描かれた主要な施設及び地形地物等(以下「要素」という)を整理・分類したデータベースを作成し、古地図の特徴や価値を見出す手掛かりとした(図2)。これにより関係者間での古地図の情報をデータとして共有することも可能となった。

そのうえで作成したデータベースをもとに、ヒアリング調査や写真記録調査等の現地調査(図3)や資料調査を行い、古地図に記載された集落及び嶺岡牧内の各要素の位置の同定や現在の状況について現状把握資料を作成した。さらに、GISソフトウェア(カシミール3D)を用いて、特定の場所からの可視領域及び景観3D画像を抽出し、古地図に描かれた各要素から見た景観との照らし合わせを行い(図4)、集落及び牧の景観の特徴について評価を行った。

(3) 古文書・古地図及び研究成果の一般公開

令和4年3月1日～3月15日に酪農の里1階展示室にて一部の古文書・古地図と、研究成果に関する企画展「古地図～中世の



図1 古文書の整理

図2 古地図データベース

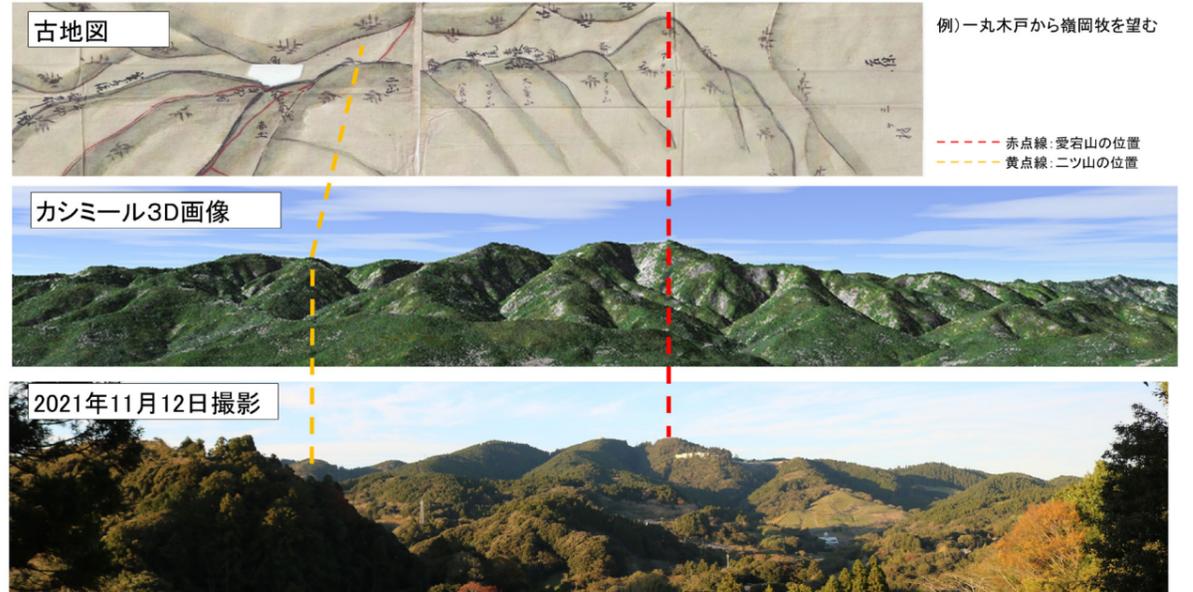


図4 古地図・景観3D画像・現地調査による写真記録の比較

域学協働の工夫!

- ★古文書・古地図を保有する地域との協力関係の構築
- ★クラウドストレージを活用し、地域及び関係者間での資料やデータの即時共有を可能とした
- ★古地図・古文書を地元区長がスキャンし、それを元に千葉工大側で内容の解説等を行う等、役割分担を明確にした

みねおかと大井～」を開催した。会期中には研究発表会も合わせて行い、地域住民の方等との情報共有を行った。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

本年度の取組により、古文書古地図の一部の整理及び解説が進んだ。特に、景観研究分野からの古地図解説研究により明らかとなった大井集落及び嶺岡牧の特徴等は、大井集落が貴重な資料を継承していただけてだけでなく、古い文献や古地図に描かれている当時の景観の様相を追認できる地域であることも示しており、大井集落における地域の歴史的価値を表す証左と成り得ることを示すものであった。

(2) 教育・研究面

古地図に記載された情報整理及び景観特徴の把握を行った結果、古地図の描画対象範囲は嶺岡牧全体又は大井集落の2種類であり、描かれている構成要素も異なっていたが、ほぼ全ての古地図に記載された要素(道・川・木戸・寺社)もあった。これらは集落及び嶺岡牧の空間構成を紐解くうえで重要な要素であることを示している。

***表彰・マスコミ掲載など**

・令和4年3月1日～3月15日企画展「古地図～中世のみねおかと大井～」酪農の里1階展示室

また、古地図の描画対象範囲は嶺岡牧全体又は大井集落の2種類があり、描かれている要素も古地図ごとに異なっていたが、ほぼ全ての古地図に記載された要素(道・川・木戸・寺社)もあった。これらは集落及び嶺岡牧の空間構成を紐解くうえで重要な要素であることを示している。

更にこれら古地図に描かれた各要素を視点場とし抽出した可視領域を重ね合わせた範囲に、古地図の描画範囲が包含されることが明らかとなった。これらは単一箇所からではなく、複数の場所の景色から得られた情報を統合し、古地図を描いていたものと想定できる。

古地図の描画範囲は、古地図に描かれた各要素を視点場とし抽出した可視領域を重ね合わせた範囲に包含されることが明らかとなった。これらは単一箇所からではなく、複数の場所の景色から得られた情報を統合し、古地図を描いていたものと想定できる。

4. 今後の展開

今回の調査研究を基礎として、引き続き古文書・古地図の解説・分析を進め、それらから集落の特徴や歴史的価値を立証することが求められる。